

## 一隅を照らす

仏教の天台宗の開祖（かいそ）である最澄（さいちょう）という人を知っていますか。知っている人は、同じ仏教の真言宗（しんごんしゅう）の開祖である空海（くうかい）も知っていることでしょう。

最澄が残した言葉があります。「一隅（いちぐう）を照（て）らす、これ国の宝なり」です。たとえ、この世の中の片隅（かたすみ）を照らす、ささやかな仕事でも、その仕事に心を込めて取り組むならば、それは、国の宝と呼ぶべき、尊い仕事だという意味です。

片隅の誰も注目しないようなものごとに、きちんと取り組む人こそ尊い人です。誰もが注目するような表舞台で、派手に活躍することばかりが尊いわけではありません。一人一人が自分の置かれた場所で、「一隅を照らしていく」ことこそ、私たちの本来の役目であり、それが積み重なっていくことで、世の中が出来上がっていくのです。

私たちは、すぐ派手なこと、目立つことに目を奪われがちですが、どこかの片隅で誰の目にも止まらないようなものに目を向けて活動することも、同じように尊いことだということを忘れてはいけません。

このことは、学校や学級でも同じことが言えます。代表として役割をもって活動する生徒もいれば、そのメンバーとしてその生徒に協力して細かいことまでやる生徒もいます。リーダーとして活動する生徒は確かに目立ちますが、その陰で支える生徒がいなければものごとを成し遂げることはできません。何事も、リーダーひとりでは成しえないのです。

「一隅を照らす」ぜひ、この言葉を心に刻（きざ）んでください。一隅とは、今、あなたがいるその場所です。あなたが、あなたの置かれている場所や立場で、ベストを尽くして照らしてください。あなたが光れば、あなたのまわりも光ります。そうすることで、あなたは、なくてはならない人となります。

それぞれの人が、今いる場所や立場で一所懸命に取り組む、そのことが他の人に伝わり、その姿を見ることで、その意思が伝わり、広がることで、一つのことが成し遂げられていくのだと思います。

だから、将来、あなたが活躍する場所で、たとえ片隅であろうと、ささやかな仕事に取り組む人生を送るとしても、一隅を照らすように取り組んでいるならば、あなたの人生は、きっとすばらしいものになるはずです。一隅を照らす人が増えていくことを願っています。